

神奈川県高等学校定時制軟式野球春季大会

神奈川工業・大和商业高等専修



クラーク記念国際高校横浜

# 準決勝戦へ

川崎市立橘高校

向陽台生蘭高等専修高校

第1試合 10時00分~

川崎市営桜川球場 6月5日(土)

第2試合 12時30分~



令和3年5月15日(土) 川崎市営小田球場

# 夕チスポ

橘高等学校定時制  
運動部通信  
2021.5.24  
第88号

目標に一つでも  
近づくと、  
小規模な  
公立夜間定時制の  
存在感を示したい

▽2回戦

市川崎	1000	2000	0	0
橘	101	200	0	40
(市)平井	黒川(橘)	三浦翼		
矢部	三塁打	仁平(橘)	▽二塁	
打	平井(橘)			



初回二死二塁のチャンスに  
四番のタイムリーヒットが  
チームを引っ張る

大野希海 (4年)

昨年度は中止となり、涙をのんだ全国大会神奈川県予選となる春季大会。コロナ禍は続くが、今年度は開幕し、橘定の初戦は二回戦からとなった。  
初めてエースナンバー「1」を背負った三浦翼は、初回からキャッチャー矢部和真のミットにテンポ良く投げ込み、七回まで毎回の15三振を奪う力投を見せた。守りの良いリズムが集中力のある攻撃につながり、少ないチャンスを実に活かして、勝利に向けて得点を重ねた。  
一回の裏、二死から三番の相澤奨吾が出塁し、二塁へ進むと、主将で四番の大野希海が先制のタイムリーヒットを放つ。  
三回には、相手守備の乱れをついて二死三塁のチャンスをつくと、相澤の三塁強襲のタイムリーヒットで

1点を追加する。  
四回は、新入部員の仁平琉生が3ベースヒットで出塁し、二死ながら二・三塁のチャンスをつくと、一番の平井開路が2ベースヒットを放ち、貴重な2点を追加した。  
この試合、七つの盗塁や相手守備の乱れをついて次塁を奪う走塁でチャンスを広げた。ランエンドヒットも決まり、制球力のある好投手を相手に戦う攻撃を実践することができた。  
三浦翼は、最終回の七回一死まで一人の出塁も許さない「完全試合」を続けていた。フルカウントまでねばられ四球を一つ与えたが、次の打者から15個目となる三振を奪い、最後は四番打者をサードゴロに抑え、87球の力投で「ノーヒットノーラン」を達成した。



三浦翼 (3年)

初めてエースナンバー「1」を背負って  
上がった公式戦のマウンドで  
ノーヒットノーランの力投



相澤奨吾 (2年)



三浦翔 (3年)



矢部和真 (3年)



熊谷卓哉 (4年)



仁平琉生 (1年)



小森愛里 (3年)



大石優希 (2年)



佐藤芽生 (1年)

役割も出場時間も違うが13人全員が全カブレで戦った  
**全部員が試合に出場!**  
公式戦だけでなく、どの試合でもグラウンドに出ている9人だけが戦っているわけではない。ベンチに居る部員も全員が自分に出ることに全力を尽くし、チームの中で役割を持って戦っている。この日の試合ももちろんそうだった。  
その中で、この試合は登録選手の13人全員にグラウンドでの出番があった。一人ひとり、その役割も出場時間も違うが、練習を積み重ねて身につけてきた自分の力を発揮しようとする全カブレで臨んでいた。  
今大会、出場校が10校と激減したが、公立の定時制高校は特に少なく、4校。その中で橘が最も小規模な学校となる。目標の一つでも近づくと、公立の小さな夜間定時制の存在感を示したい。



横井華音 (2年)



中盤の四回  
二死二・三塁のチャンスに  
2点タイムリーベースヒットを放つ

平井開路 (4年)



チーム一丸となって戦い 完全燃焼